



平成31年2月21日

小樽港北防波堤の新たな発見

～平成30年度 第2回小樽港フィールド・ラーニング（O. F. L.）を開催～

小樽開発建設部では、廣井勇博士（初代小樽港湾事務所長）による小樽港北防波堤の建設時の計画や技術についての考え方を学ぶことにより、今後の港湾整備に活かしていくことが重要と考えています。

このような趣旨から、本年度の第2回「小樽港フィールド・ラーニング」を、下記のとおり開催しますので、お知らせします。

※ O.F.L.とは、「小樽港（Otaru）で実物を見ながら（Field）習得（Learning）する」の略語です。

記

- 1 日 時 平成31年3月1日（金）15：00～17：00
- 2 場 所 小樽開発建設部 第1会議室
- 3 講 演 「廣井勇と釧路港修築計画」
講師 関口 信一郎 氏（萩原建設工業株式会社 特別顧問）
- 4 報 告 「小樽港北防波堤についての新たな発見」
小樽港湾事務所 計画課 本間 薫
- 5 参加者 自治体及び民間企業の港湾又は漁港の担当者等50名程度
- 6 内 容 詳細は、別紙をご覧ください。
- 7 その他 当日、取材を希望される場合は、2月27日（水）15時までに広報官へお知らせ願います。

ShiriBeshi
「世界の後志」を目指して

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部

広報官 田中 邦彦 (0134-23-9910)

小樽港湾事務所 計画課長 本間 薫 (0134-22-6131)



小樽開発建設部ホームページアドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp/ot/>

小樽港フィールド・ラーニング（O. F. L.）の経緯

日本近代築港の原点である小樽港は、北防波堤の計画と建設に当たって行った将来の人口や貨物量の推定、他のインフラ整備に呼応した投資の必要性などの計画的観点や、耐海水性コンクリートの製作、波に対し粘り強い防波堤構造などの技術的観点は、今もなお港湾整備の根幹となっています。

初代小樽港湾事務所長である廣井勇博士が考えた港湾工学や当時の時代背景及び史実等を学ぶことは、港湾技術者としての意識、技術力の向上に効果的と考え、平成24年度から「小樽港(Otaru)で実物を見ながら(Field)知識を習得(Learning)」するため、『小樽港フィールド・ラーニング(O.F.L.)』を開催してきました。

平成28年度の第6回のO.F.Lからは、関口信一郎氏による「北海道開発の歴史～廣井勇博士の生涯」をテーマに連続6回シリーズとして開催し、最終回となる今回は、「廣井勇と釧路港修築計画」と題し、廣井勇博士による港湾修築計画の事例として釧路港の計画についてご講演頂きます。また、今回は小樽港湾事務所の職員から、所蔵している資料等から小樽港の北防波堤に関する構造や長期耐久性試験などについて、今年度、新たに発見された確認事項を報告します。



小樽港北防波堤の位置



100年以上現存している小樽港北防波堤



平成30年度 第1回O. F. L（7月開催）の様子